公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信 2018年1月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・1
・特集・会員を増やすための探鳥会③
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・16
（2017年11月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・18
・2018年バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報をお寄せください
・探鳥会における鳥インフルエンザへの配慮のお願い
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・20
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・21
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・21

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会③）

今月号では、11月23日、25日に7か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。
※全体で8回を企画されている栃木の「会員を増やすための探鳥会」は、すべての探鳥会の終了後にまとめて記事にいたします。

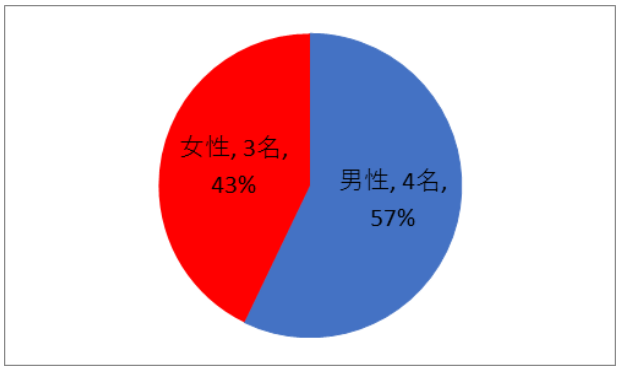
表1.

実施日	支部	実施場所	
2017/11/23（木・祝）	東京	三鷹市	井の頭公園
	滋賀	大津市	南郷洗堰
	京都支部	京都市	鴨川
	奈良支部	奈良市	平城宮跡
2017/11/25（土）	山形県支部	山形市	霞城公園
	千葉県	千葉市	千葉公園
	滋賀	大津市	長等公園

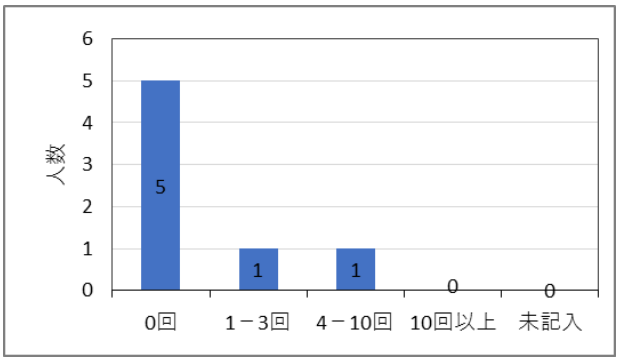
井の頭公園でバードウォッチング（東京）

【日程】2017 年 11 月 23 日（木・祝）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】井の頭公園（東京都三鷹市）
【天候】雨のち曇り
【参加者】７名（うち一般参加者７名）
【リーダー】９名、財団職員５名
【お試し入会】１名（一般参加者のうち約 14%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞（10/24）

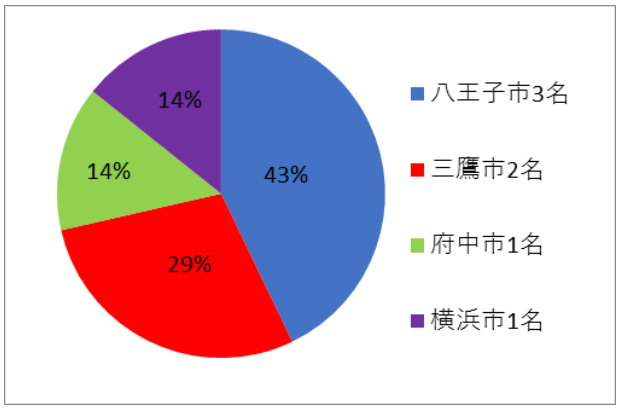
【性別】



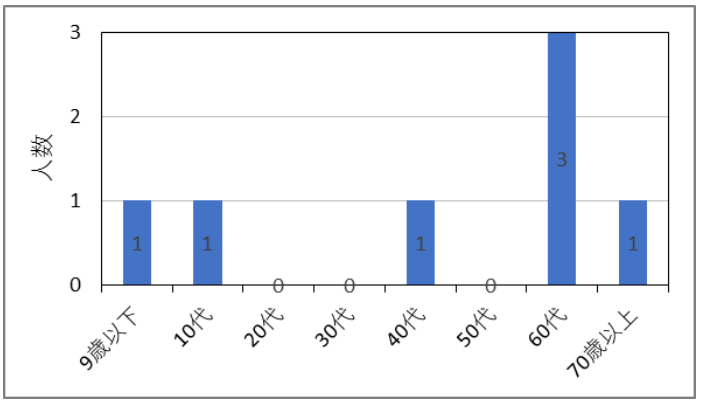
【バードウォッチングの経験回数】



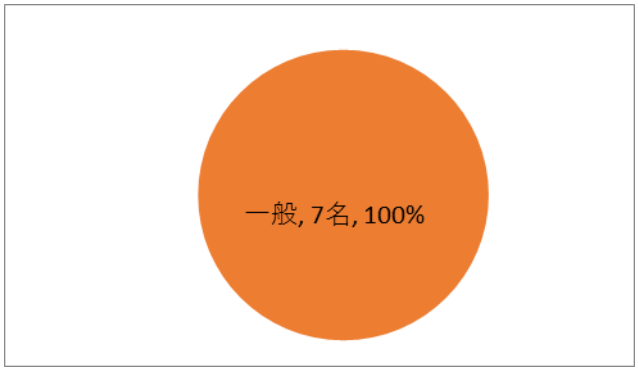
【お住まい】



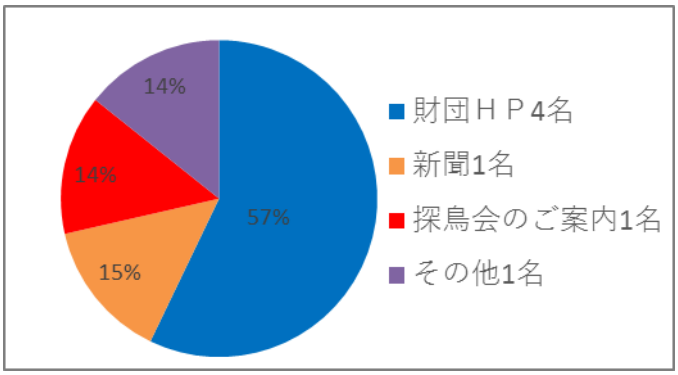
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



日本野鳥の会東京主催の会員を増やすための探鳥会が、日比谷公園に続き、井の頭公園にて実施されました。「あの日は確か雨だったのでは？」関東圏の方はお気づきでしょう。残念ながら、当日の朝は雨、さらに白息が出るほどの寒さ。

リーダー含めスタッフら一同“果たして参加者はくるだろうか”とソワソワしておりました。しかしそんな雨の中、１人、また１人と計７名の参加者が傘を片手に駅前へ集合！駅前でズラッと並んだ望遠鏡に興味を持った飛び入り参加者（50 代男性）や、

「学校に行くときより早起して、とても楽しみにして来た。」

と探鳥会目的で来てくれた小学生の親子連れも１組いました。待ち時間は、おさんぽ鳥図鑑を配布したあと、リーダーの望遠鏡でキジバトを観察しました。

■探鳥会の様子

いよいよ探鳥会スタート。公園のマップ前でルートを確認します。天候不良のため、時間を短縮したルートが参加者に案内されました。

第１ポイントのジャブジャブ池では水打つ池にキンクロハジロ、オナガガモなどカモ類がぞくぞくと見つかりました。次の場所へ移動中、ホンセイインコ（外来種）を頭上に発見。

「焼肉屋で使う白いエプロンみたいに白い輪っかがあるので、ワカケホンセイインコと呼ぶこともあるよ。」

とユニークなリーダーの解説が入ります。参加者のお子さん方もカルガモの特徴を

「黄色い口紅！」

と例えて私たちを笑わせてくれました。

▲観察の様子

第２ポイントの開けた土手では、カモ以外のシジュウカラ、カワウ、ヒヨドリなどを各自ゆっくり観察。望遠鏡にスマートフォンを近づけて写真を撮影する方法も紹介され、参加者には嬉しい写真のお土産となったようです。

▲望遠鏡にスマートフォンを近づけて写真撮影

当初は早めに終了する予定でしたが、池の上の橋付近では徐々に小雨となり、探鳥会はそのまま続けることに。藪の中のゴイサギが見つかり、

「これ本当に鳥なの？」

と、大人の参加者も驚いていました。

解散場所での鳥合わせでは、手元の小冊子と、スタッフが掲げる大きな口絵の図鑑で一緒に見た鳥を数え、おおよそ１５種類の鳥を確認しました。

引続きお試し入会について簡単な説明があり、晴れ間がようやく出たところで探鳥会は締めくくられました。

今回のお試し入会者は１名（女性）。娘さんを通じて小冊子を手にし、その後、「探鳥会のご案内」で探鳥会を知り、家がお近くとのことで散歩ついでに参加したそうです。

■参加者の声

60 代女性（お試し入会者）：１人で鳥を見に行くことが多かったので、よく知っている人から話を聞きながら回れて良かったです。今度は自分の双眼鏡を用意して参加したいと思います。

■まとめ

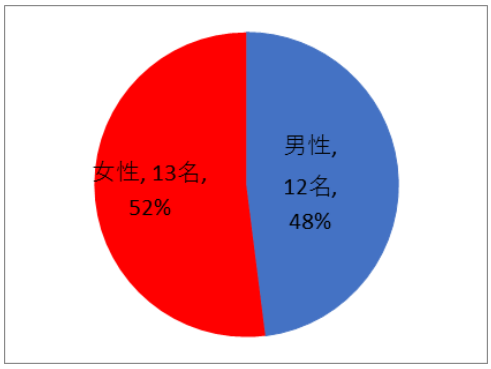
今回の探鳥会は雨こそ降りましたが、ちょうど紅葉のシーズンと重なり、色に染まった木の葉の光景が寒さを和ませてくれた気がします。また、当初の予定より大幅に人数が少なくなった探鳥会ではありましたが、始終参加者とスタッフが話しやすい雰囲気となりました。

（普及室／房南都子）

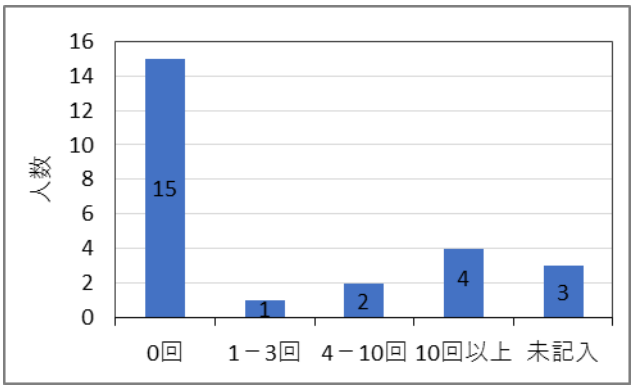
はじめてのバードウォッチング in 南郷（滋賀）

【日程】2017 年 11 月 23 日（木・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
【場所】南郷洗堰（滋賀県大津市）
【天候】晴れ
【参加者】25 名（うち一般参加者 19 名）
【リーダー】4 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 16%）
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、滋賀リビング（11/11）

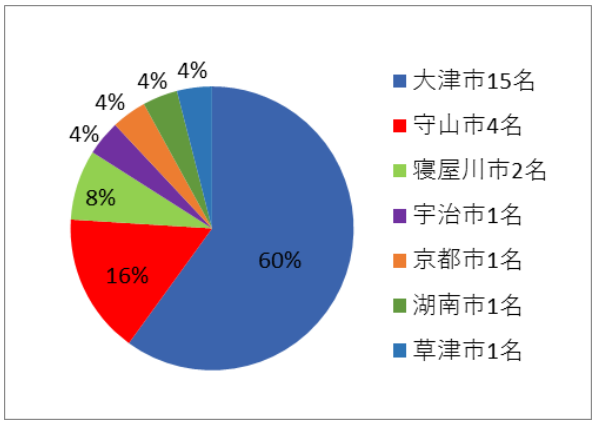
【性別】



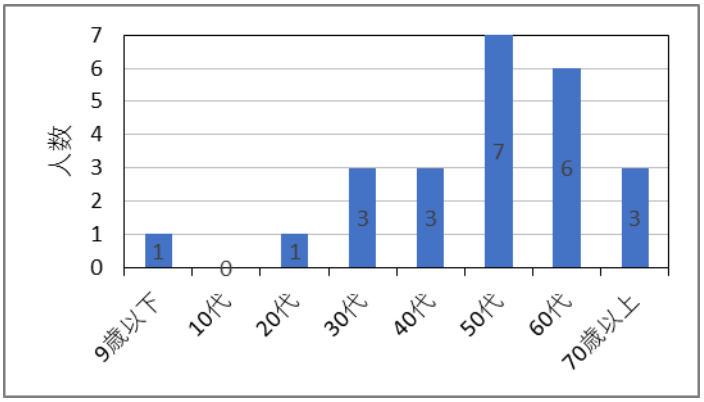
【バードウォッチングの経験回数】



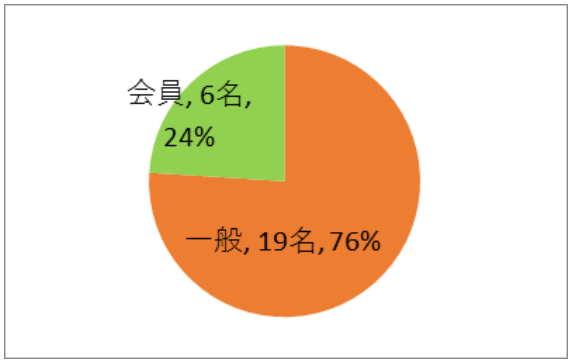
【お住まい】



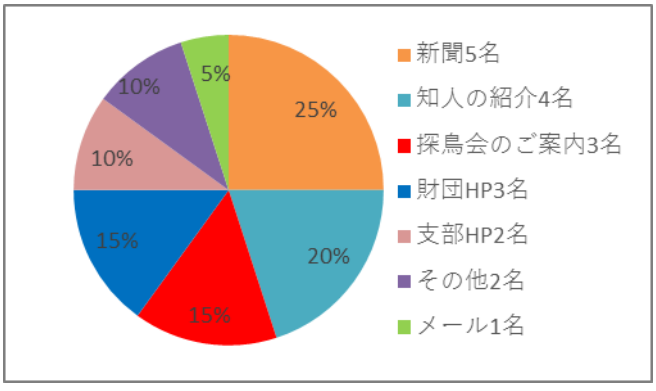
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の経緯・概要

南郷洗堰での会員を増やすための探鳥会が開催されるのは、昨年に続き２回目です。

琵琶湖の南端に位置する南郷公園を出発し、南郷公園～瀬田川洗堰～瀬田川・大戸川合流地点～ウォーターステーション琵琶まで、約1.5kmの道のりを約２時間かけて歩きました。観察の後は、ウォーターステーション琵琶内の会議室で鳥あわせなどを行い、解散となりました。

■探鳥会の様子

前夜は雨が降り、天気が心配されましたが、当日朝は青空に。集合場所の南郷公園の駐車場には、20 名を超える参加者が集まりました。受付の際、双眼鏡の貸出を行ったところ、用意した 10 台は全てなくなりました。

探鳥会の最初のあいさつの時に、リーダーから

「初めての方はおられますか？」

と声をかけたところ、ほとんどの方が挙手されました。

はじめに、リーダーからパネルを使って、野鳥観察の心構えを紹介。「大きな声　大きな音」は立てないこと、急な人の動きにも野鳥は敏感に反応すること、それらに注意すると、野鳥が観察しやすいですよ、との説明がありました。次に、双眼鏡の使い方を説明し、観察開始です。

早速、駐車場や芝生を歩くハクセキレイが目にとまりました。ハクセキレイは肉眼でも見つけやすく、

「かわいい！」

と大人気でした。続けて、近くの松の木の上にのんびりとまるトビ、さらに芝生にセグロセキレイ、近くの枝にシジュウカラなど、見つけやすい鳥が次々に現れました。リーダーが鳥のいる方向を案内すると、参加者は目視ですぐに鳥を見つけ、自分の双眼鏡でその姿を捉えることを繰り返します。

「何か食べてる。」

「大きく見えるね。」

などの声があがっていました。また、リーダーが望遠鏡を使って同じ野鳥を見せると、双眼鏡とは違うアップの見応えに、参加者のみなさんは喜んで観察していました。

その後は、川沿いの道をゆっくり歩きながらバードウォッチングをしました。水辺で休む数種類のカモやオオバン、ドバトの群れを追うハヤブサ、木々の枝先を移動していくエナガの群れ、じっと動かずに風に吹かれるアオサギなどを観察していきました。

リーダーのみなさんは、野鳥を見つけると、望遠鏡に入れたり、双眼鏡で見つけやすいように案内したり、子どもの参加者には、望遠鏡を低くして見せてあげたり。リーダーによると、見られた鳥の種数は昨年よりも少なかったとのことですが、観察する野鳥が次々と見つかり、終始、参加者を飽きさせることのない探鳥会だったので、参加者の方はみなさん「たくさん鳥を見た」と感じられたのではないでしょうか。

最後は、「ウォーターステーション琵琶」内の会議室で、鳥あわせと感想カードの記入、支部からのお知らせの時間などが設けられました。あたたかい室内に座れる場所が用意されていたため、参加者も落ち着いてお話を聞いているようでした。また、感想カードや入会申込書の記入もスムーズでした。

■参加者の声

・一人で野鳥を見ていても、なかなか見つけられなかったり、名前が分からなかったりするので、このような機会があってよかったです。

・カモって、よく見るといろいろな種類があるんですね。知りませんでした。

■まとめ

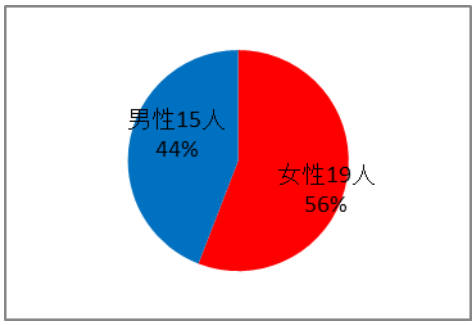
双眼鏡が参加者に行き渡っていたことで、自分で野鳥を見つけ、観察する楽しさを感じてもらうことができたと思います。双眼鏡を使うのは初めて、という方も多かったですが、はじめにハクセキレイやトビなど見つけやすい鳥を見られたため、双眼鏡の使い方に慣れる時間がありました。また、川沿いのコースでカモやサギ、枝の先にとまる小鳥など、見やすい野鳥が多かったこともあり、最後の方には、リーダーの案内をもとに、参加者が自分の双眼鏡で野鳥の姿を捉え、観察できるようになっていました。バードウォッチングの楽しさを実感でき、次はもっと見たいと思わせる良い機会になったと感じました。

（普及室／江面康子）

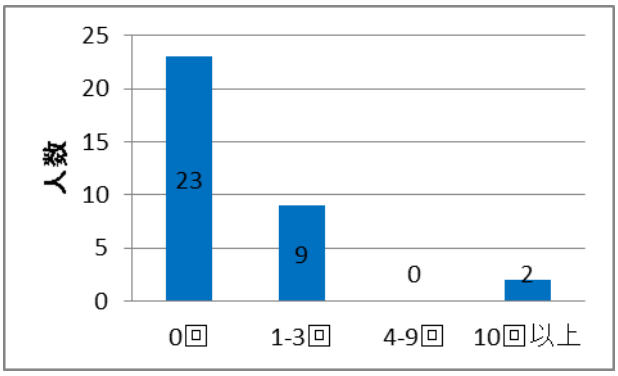
初めてのバードウォッチング ＠ 鴨川（京都支部）

【日程】2017 年 11 月 23 日（木・祝）13 時 00 分～16 時 00 分
【場所】鴨川（京都府京都市中京区、上京区）
【天候】晴れときどき雨
【参加者】34 名（うち一般参加者 33 名）
【リーダー】10 名、財団職員 1 名
【お試し入会】8 名（一般参加者のうち約 24%）
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、支部ブログ、支部 Facebook、財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、毎日新聞（11/16）、読売新聞（掲載日不明）、リビング京都（11/17）

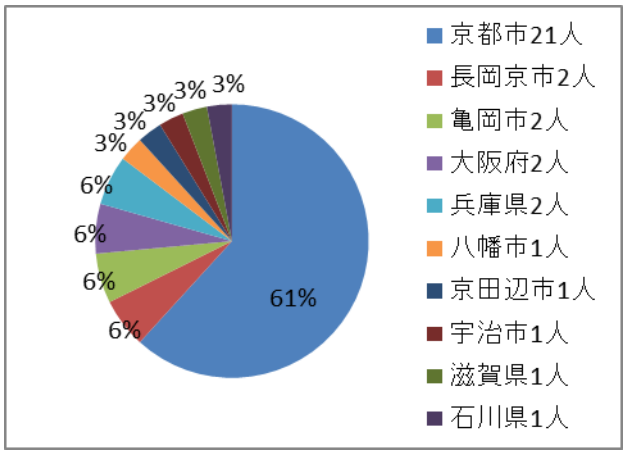
【性別】



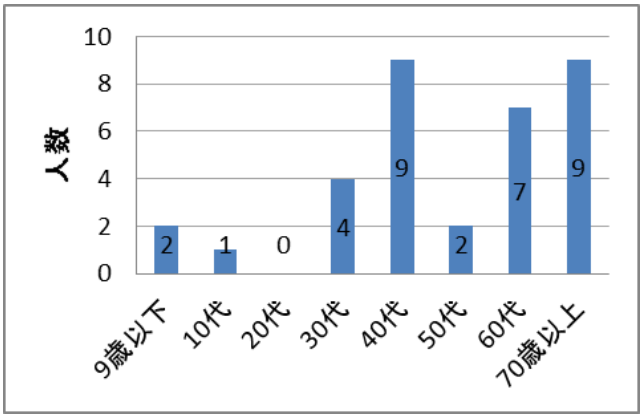
【バードウォッチングの経験回数】



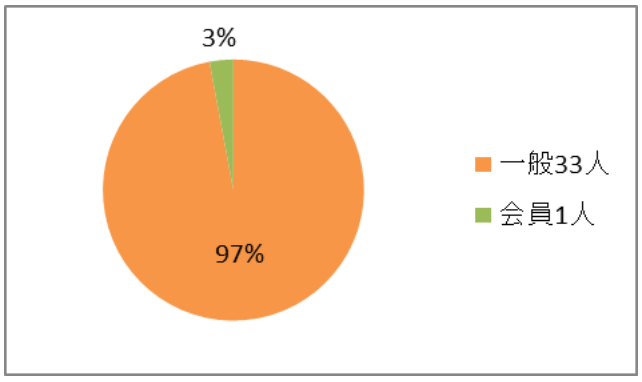
【お住まい】



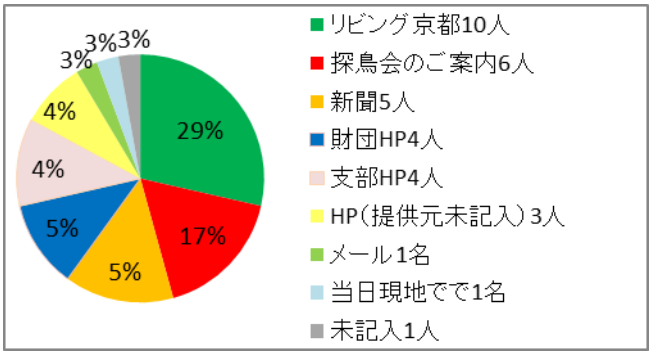
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

京都市の中心部を流れる鴨川右岸を、京都の最も華やかな繁華街に隣接する三条大橋から四条大橋を経て賀茂大橋まで３時間かけてゆっくりと遡上する…。ここでの会員を増やすための探鳥会は昨年度に引き続き２回目の実施となります。昨年の実施時は悪天候に見舞われたにも関わらず、１４名の参加者中６名のお試し入会があった会場です。

今回は時おりわずかに時雨れたものの概ね穏やかな天気に恵まれました。開催日は秋の京都の観光シーズン真っただ中。逆光にならない午後に時間を設定しています。

■探鳥会の様子

往来で賑わう三条大橋下の河川敷広場に、緑のフラッグとたくさんのスコープが並ぶ様は遠くからでもとても目立ちます。定刻 30 分前にはスタッフが集まり、受付・双眼鏡貸し出しの準備と、今日の探鳥会の趣旨・進行予定・役割分担などを打ち合わせました。

次々と集まってくる参加者をリーダーが笑顔で出迎え、受付に誘導します。時おり
「探鳥会の受付はこちらです！」
と声を上げると、不安顔で遠巻きにしていた参加者が安心した様子でやってきました。

13 時、リーダーの挨拶で探鳥会が始まりました。行程、双眼鏡の使い方、住宅に近い鴨川河川敷での観察マナーについての説明の後、少しずつ移動を始めます。

鴨川の川面ではカモ類・サギ類を中心に水辺の鳥を多く観察できました。見通しの良い一直線のコースだったので、リーダーたちは広く横に展開して、いつも何種類かの鳥がスコープに捉えられている状態を参加者に提供します。思い思いにスコープを覗いて、気に入った鳥をじっくり観察する人、いろいろな鳥を見比べる人、リーダーの解説に熱心に聞き入る人、逆にリーダーを質問攻めにしている人、と参加者が様々に探鳥会を楽しんでいる様子が見られました。

中洲の小石の中に紛れるイソシギやイカルチドリの観察はまるで宝探しのようです。スコープを覗いて
「何もいないよ？」「どこどこ？」
と不思議がる参加者に丁寧に鳥の位置や探し方、観察のポイントを伝えていきます。
「あ、いた！」「かわいい！」
「じっとしてたら絶対にわからないね。」
根気よく観察して発見の喜びを手にした参加者の嬉しそうな表情がとても印象的でした。

ゴールの賀茂大橋袂の広場への到着は先頭集団と後方集団で少し時間が空いてしまいましたが、参加者は心行くまで観察を楽しめたようです。絵本を使って今日見られた鳥を確認します。
「一種類ずつ覚えて、ぜひ、ご自分で探してみてください。」
とのリーダーの言葉に参加者は大きく肯いていました。

お試し入会へのお誘いでは、探鳥会の紹介と共に当会が日本最大の自然保護団体であること、支部が保護活動を支える大きな柱であることなどをお伝えして、８名の方が入会して下さいました。

■参加者の声

30 代男性：鳥には興味があるのですが子どもが小さいのでなかなかこのような観察会に参加できませんでした。今日は夫婦交代でじっくり観察することができてよかったです。

70 代女性：一人ではどうも気恥ずかしいし分からないので、今まで観察できませんでした。やっぱり教えてもらいながらたくさんの方と一緒に鳥を見るのは楽しいですね。

■全体をとおして

探鳥会開始前のスタッフ打合せ時に、この探鳥会が初心者向け・お試し会員お誘いを主眼としていることを再確認されたことが大変意義深いと感じました。当日急遽応援に駆けつけて下さった会員にも趣旨をきちんと伝えることで、探鳥会運営に一貫性を持たせることができ、スムーズな行程・安全管理やお試し入会に繋がる丁寧な参加者対応が期待できると思います。

探鳥会終了後のスタッフの振り返りでは班分けの有無や、事故・はぐれ防止のためのペースメーカー・最後尾管理スタッフの必要性、子ども向けの観察機材の必要などが議論されました。中でも「お試し入会申し込み時、記入待ちの間に帰ってしまう人がいるかもしれない。記入ボードや対応者の数など受付体制を充実した方がいい」との意見はユニークでした。探鳥会前後のスタッフ間の情報共有をしっかりされることが京都支部の運営の基盤になっているのだと改めて感じることができました。

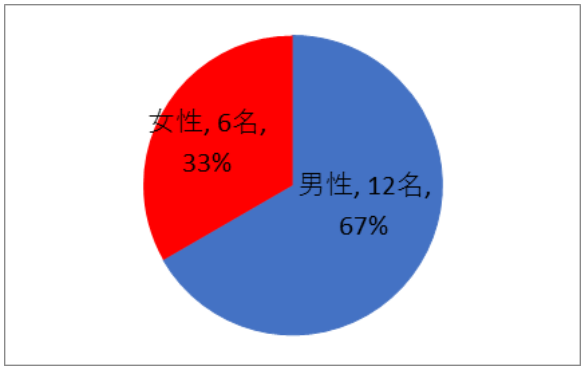
（普及室／浅野綾子）

平城宮跡　水上池で初めてのバードウォッチング（奈良支部）

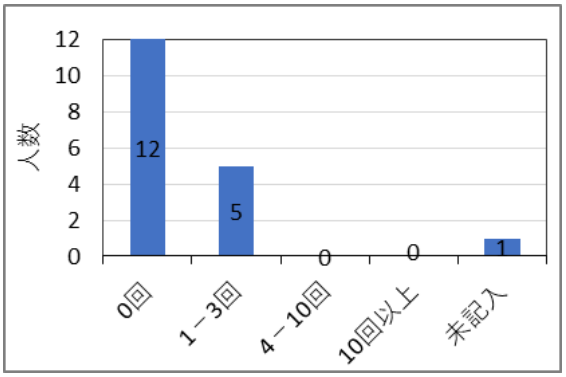
【日程】2017 年 11 月 23 日（木・祝）９時００分～11 時 50 分
【場所】平城宮跡・水上池（奈良県奈良市）
【天候】晴れ時々曇り
【参加者】20 名（うち一般参加者 20 名）
【リーダー】６名、財団職員２名
【お試し入会】２名（一般参加者のうち 10%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter、支部 HP、支部 Facebook／Twitter
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～６、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞（10/24）

※グラフは、初参加者のうち、名簿に記入のあった 18 名について集計しています。

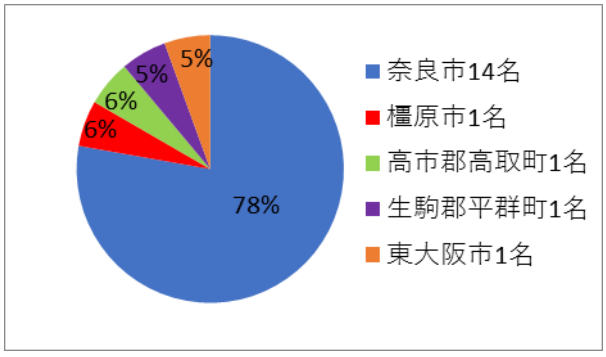
【性別】



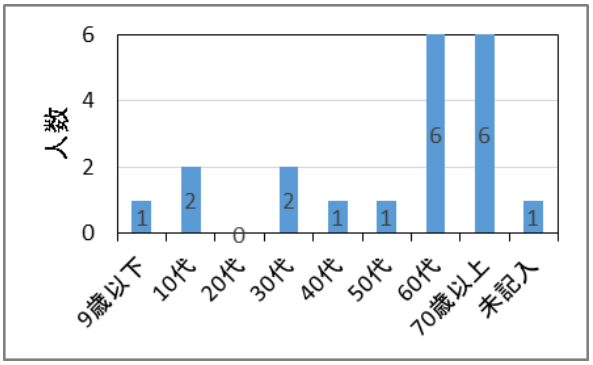
【バードウォッチングの経験回数】



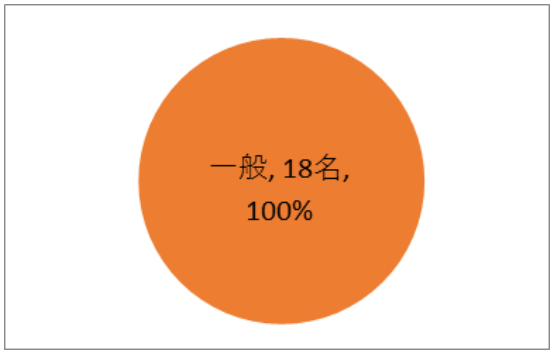
【お住まい】



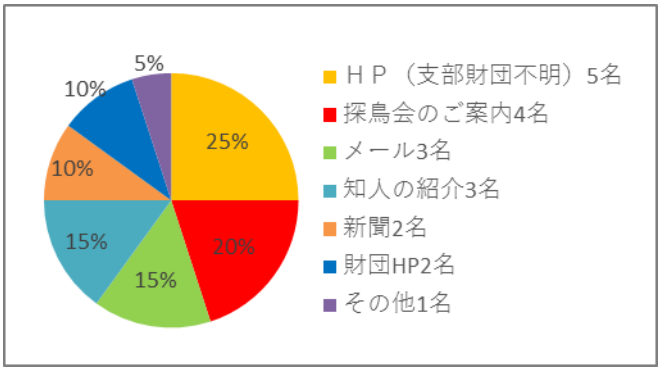
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

開催場所は、2015 年、2016 年度に引き続き「平城宮跡・水上池」です。コース上には、水上池、コナベ池の２つの池があり、水鳥が観察しやすく、初心者が野鳥を観察する上で格好の場所です。

観察は、初参加者 20 名と経験者・会員 19 名の２グループにわけて行われました。同じコースを初参加者のグループは右回りに、経験者・会員のグループは左回りに歩きました。

■探鳥会の様子

夜に降った雨も上がり、天気が回復に向かう中での開催でした。集合場所では、カレンダーと図鑑の販売が行われており、賑わいをみせています。受付では、小冊子「おさんぽ鳥図鑑」と観察できそうな野鳥を写真付きで載せたチェックシートが配られました。

９時になるとリーダーから、挨拶やコースの説明、トイレや貸出用双眼鏡の案内がありました。ここで参加者を初参加者グループと経験者・会員グループに分け、経験者・会員グループが先に出発。初参加者グループは、双眼鏡の使い方を確認してから出発しました。

初参加者グループ20名を４名のリーダーが案内しました。集合場所から水上池までは、道路を渡り、ススキの草原を抜けていきました。

▲水上池での観察の様子

水上池には昔、釣堀があったそうで、残された釣り桟橋にカワウやケリ、マガモ、カルガモなどが休んでいました。

「カワウは目がきれいですよ。」

とリーダーに促されて望遠鏡をのぞいた参加者からは、

「わー、すごくきれい！」

「望遠鏡だとすぐ目の前にいるみたいですね。」

と驚きの声があがります。池の縁で休むオシドリや、水面に出たり潜ったりするカンムリカイツブリ、人馴れしているようで間近に見られるオオバンやハシビロガモに参加者はすっかり見入っていました。

隣のコナベ池は、水上池より野鳥が少ないようでした。コナベ池は、コナベ古墳という前方後円墳の周濠。北側にはヒシャゲ古墳（仁徳天皇の皇后である石之比売(いわのひめ)の陵墓）もあり、詳しいリーダーと参加者から歴史の話も聞かれました。

コースの半分を過ぎた頃になると、参加者も自分で鳥を見ることに慣れてきたようです。

「あのカモは始めに見たマガモですよね？」

「今、白い鳥が飛びましたが、何ですか？」

などと積極的に楽しんでおられました。

集合場所に戻ると、経験者グループはすでに観察を終えて待っていました。

「観察の最後に見た鳥を確認します。」

と説明があり、合同で簡単に鳥合わせを行い、32 種を確認しました。続いて

「探鳥会の参加費が無料になり、支部報が年４回届きます。」

と１年間 500 円のお試し会員のお誘いがあり、11 時 50 分には終了となりました。

■参加者の声

50 代くらいの女性：昔から鳥が好きで、個人的に鳥を見ていました。最近時間が出来、もっと積極的に始めようと思ったところに、新聞でイベントを見つけ、参加しました。

60 代くらいの男性：日本野鳥の会の小冊子に申し込み、送られてきたパンフレット「探鳥会のご案内」でイベントを知りました。先月、野鳥の会でお勧めされていた双眼鏡も買い、今日が初めての参加です。

60 代くらいのご夫婦：転勤で勤務地が東京から大阪になりました。自然が多いところに住みたいと思い、住む場所は奈良を選びました。

■まとめ

新聞報道によって全体で 100 名弱が集まった年もありましたが、今回は支部 HP や Fcebook、財団のメールやパンフレットの広報にし、対応しやすい人数が集まりました。水鳥が観察しやすく、また歴史のある奈良らしいフィールドでのバードウォッチングを皆さん楽しんでいました。

（普及室／堀本理華）

はじめてみよう！バードウォッチング in 霞城公園（山形県支部）

【日程】2017 年 11 月 25 日（日）９時 30 分～11 時 30 分
【場所】霞城公園、霞城セントラル（山形県山形市）
【天候】雪のち雨
【参加者】１名（うち一般参加者１名）
【リーダー】６名、財団職員１名
【お試し入会】１名（一般参加者のうち約 100%）
【広報】
　＜インターネット＞支部 HP、財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～６、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞支部作成のチラシ、探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞（10/24）

※参加者が１名であるため、アンケート結果は掲載いたしません。

■探鳥会の様子

今年から参加の山形県支部。今回の会場となった霞城公園（かじょうこうえん）は、山形城跡地を整備した公園で、駅から徒歩 15 分というアクセスの良さと、アップダウンのないコースが特徴です。お濠の周りでは、樹林地の小鳥とお堀の水面に浮かぶ水鳥が観察できて、初心者には最適なフィールドです。

探鳥会当日の朝、明け方から降っていた雪が雨に変わり、集合場所には傘を差したリーダーが集まってきました。今回の探鳥会は会場の近くに会議室を予約してあり、悪天候であっても参加者がいれば開催する予定です。

集合時間を少し過ぎたころ、ようやくお一人の方が参加してくださり、なんとか探鳥会を開催することができました。参加されたのは市内在住の女性で、以前に何度か近所の植物園主催の探鳥会に参加された経験がおありで、自宅では巣箱や餌台を設置して楽しんでいらっしゃるとのことでした。

探鳥会では、参加者１名とリーダー5 名で傘をさしながらお濠の周りを歩き、カルガモ、コガモ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、シメを観察しました。また樹の幹のコゲラの巣穴もじっくりと観察しました。小一時間ほど公園のコースを歩いた後、そのまま駅前にある市民活動支援センターの会議室に移動し、バードウォッチングの楽しさを伝えるスライド上映会を行いました。

室内でスライドを見ていただいた後、最後に支部の紹介とお試し入会の説明がありました。申込用紙が手渡されましたが、参加者の方は、用紙を受け取るとすぐにペンを走らせ、お試し入会してくださいました。悪天候の中、参加されるほど意欲の高い方であったことと、探鳥会と室内でのスライド上映が功を奏したように思えました。

▲観察の様子

▲室内講座の様子

■屋内プログラムについて

探鳥会終了後、リーダーの皆さんと昼食を食べながら今回の探鳥会の反省会を行いました。その中で特に話題になったのは、野外での探鳥

会だけでなく室内プログラムを実施したことについての議論でした。今回のように野外でのバードウォッチング体験だけでなく屋内のプログラムをセットにすると、じっくり話を聞いてもらうことができるため、こちらの思いやメッセージは格段によく伝わります。もし今回、野外だけだったら、果たして傘を差しながらお試し入会の用紙に記入して入会してくれたかどうかわかりません。

しかし、探鳥会の準備とスライド上映の準備を並行して行うとなると、倍の人手がかかります。どんなにいいことでも無理がかかってしまうと持続できなくなるので、次年度以降どうするかは慎重に考えた方がよい、という意見も出ていました。

■集客力を上げるには

現在支部では会員だけでなく事業の担い手である役員が不足しており、新しいことにチャレンジすることが難しくなってきています。しかし新たに役員を募集するにも、会員が減少して母数が少ない状況では人材も集まってきません。そこでこれまでも支部では会員を増やすために一般向けの探鳥会を企画してきましたが、新聞等での告知がうまくいかず集客に苦労してきました。当面の課題としては、「集客力を上げること」ではないかということが浮き彫りになってきました。

今回の探鳥会の広報では、財団のデータベースに登録された約 500 人の山形県民に「探鳥会のご案内」をお送りしました。しかし、残念ながら雪と雨の悪天候のため、これがどの程度の集客効果があったかを検証することはできませんでした。できればもう一度同じ方法で広報してみて集客できるかどうかを検証してみたいと思います。

またこれに加えて、「おさんぽ鳥図鑑プレゼント葉書」を配布できる場所を増やし、500 人の名簿をさらに増やすことでおのずと集客力は上がっていくものと思われます。「おさんぽ鳥図鑑プレゼント葉書」をどこに置いてもらえるか、どうしたら配布場所を増やすことができるかについても話し合いました。

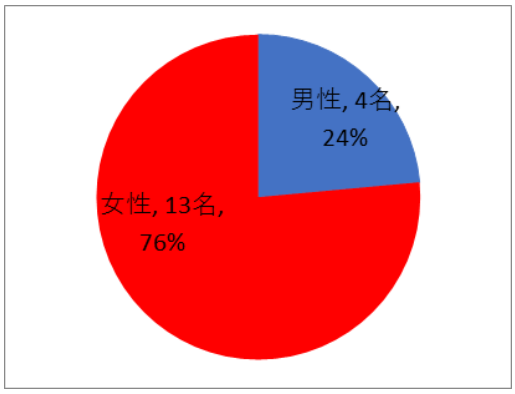
他にも、探鳥会の開催時期や山形県の県民性の話など様々な議論がありましたが、今後ひとつずつ確実にクリアしていけばおのずと結果は出るのではないかと思いました。

（普及室／箱田敦只）

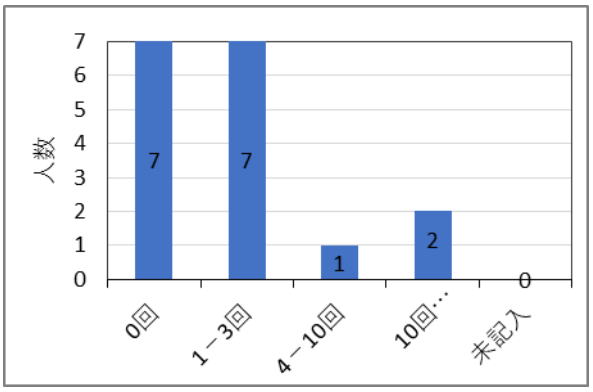
千葉公園　ビギナーズ探鳥会（千葉県）

【日程】2017 年 11 月 23 日（木・祝）10 時 00 分～12 時 00 分
【場所】千葉公園（千葉県千葉市）
【天候】晴れ
【参加者】17 名（うち一般参加者 17 名）
【リーダー】13 名、財団職員２名
【お試し入会】７名（一般参加者のうち約 41％）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞（10/24）、千葉日報（11/16）

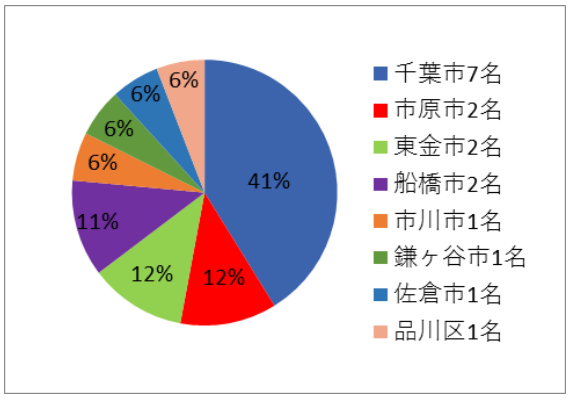
【性別】



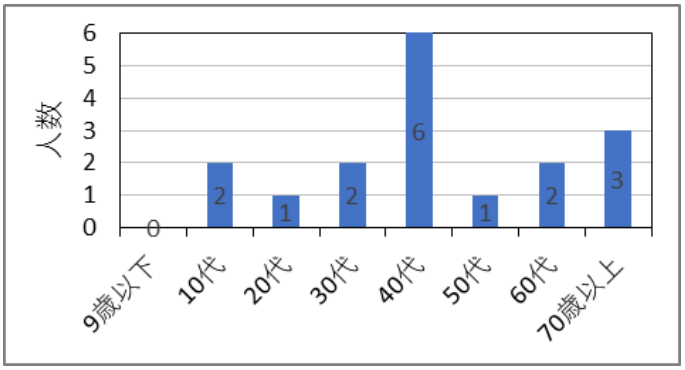
【バードウォッチングの経験回数】



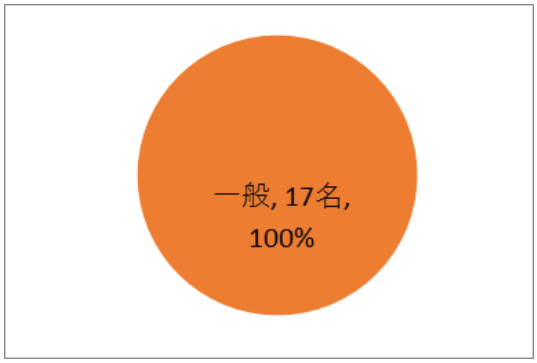
【お住まい】



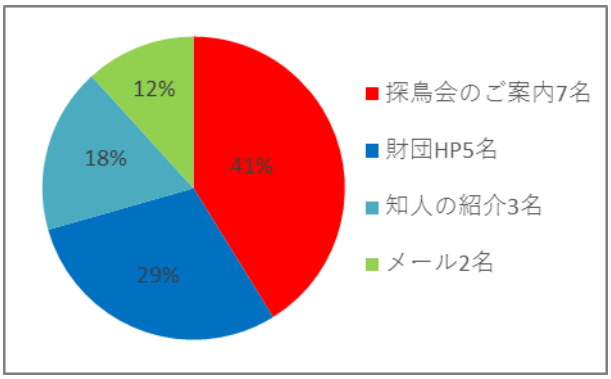
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

今回の開催場所である千葉公園での会員を増やすための探鳥会は、今回で４回目を数えます。昨年は、一般参加者 24 名のうち 11 名（約 46%）と、多くの方々がお試し入会されました。この理由についてのインタビューは４月号（ http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201704.pdf ）に掲載されています。

■探鳥会の様子

JR 千葉駅前で受付と双眼鏡の貸し出しをした後、リーダーの引率のもとで駅を出発し、徒歩で千葉公園の入り口広場に集まりました。参加者は、親子連れ、一人で来た方、友人同士など様々な顔ぶれです。

入り口広場で全員が揃ったところで、リーダーが今日のコースの説明と、日本野鳥の会の紹介をしました。さらに、お試し入会について

「今日はお得な機会を紹介します。」

と、軽く紹介がありました。続いて、双眼鏡の使い方について説明した後、最後に

「気になることは、何でもスタッフに質問してください。」

と添えて、探鳥会がスタートしました。

今日のコースは、まず公園の池を半周してから、池の隣にある林を歩き、池をもう半周して、最初の場所に戻る、というもの。歩いてすぐに、リーダーの一人がカワセミを見つけました。参加者１７名に対してリーダーは１３名で、望遠鏡も多く準備されていたので、参加者はみな、リーダーのスコープでじっくりと観察することができました。さらに、キンクロハジロ、ユリカモメやコサギなどもとても近くで見ることができました。背中の青色がきれいなカワセミはもちろん、真っ白な姿のコサギや、よく見ると様々な種類があるカモたちも、参加者は喜んで観察していました。

池から離れて林に移動すると、コゲラが見つかり、全員で観察しました。

「この鳥は、キツツキの仲間なんですよ」

と話すと、参加者は驚いた様子でした。木の枝をつついているところを、望遠鏡で観察し、さらにリーダーが、周囲の参加者にコゲラの居場所をわかりやすく伝えます。動き回る林の鳥は、双眼鏡で観察するのは難しいですが、リーダーの方々が丁寧に、それぞれの場所から見たときの居場所を伝えることで、多くの参加者は双眼鏡でもコゲラを観察することができました。

さらに、シジュウカラ、メジロ、エナガなどの混群にも出会い、リーダーが、それぞれ近くの参加者に、見えやすい野鳥を説明しました。

林を抜けた後は、１０分ほどトイレ休憩をしました。その間も、参加者はリーダーに鳥についての質問をするなど、和やかな雰囲気でした。

▲観察の様子

さらに池を半周し、初めに説明をした場所に戻ります。全員が揃うと、お試し入会制度の説明がありました。リーダーは、会員になるメリットとして、下記の４つを挙げていました。

・探鳥会に参加しやすくなる。
・支部報が届き、季節ごと、場所ごとに異なる野鳥の情報を受け取ることができる。
・千葉県の環境保全に貢献できる。
・財団事務局と連携しているので、タンチョウ、シマフクロウなど日本の絶滅危惧種を保護することにもつながる。

「お試し入会される方は手を挙げてください。」

とリーダーが言うと一人、また一人と手が挙がり、１７名中７名の方がお試し入会されました。

■参加者の声

30 代くらいの女性：家がこの公園の近所で、散歩に来たことはあるのですが、こんなにたくさんの鳥がいたなんて知りませんでした。

■まとめ

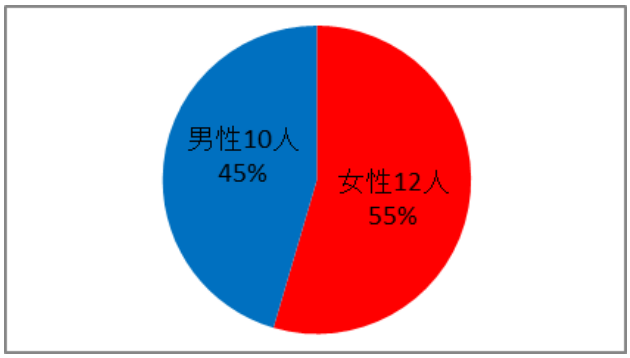
リーダーの人数が多く、参加者とリーダーが気軽に話せる雰囲気があったことや、逆光であるなど見えにくい鳥は紹介せず、近くの野鳥を全員でじっくり観察できたことが、参加者の満足につながったのではないかと思います。入会の勧誘の際は、日本野鳥の会は自然保護団体であるため、会員になることで自然保護に貢献できる、という点を、セールスポイントとして活用されておりました。

また、今回の探鳥会では、あえて鳥合わせをしない、という工夫がありました。鳥合わせの時間を観察や支部の勧誘に使うことができたことも、高いお試し入会率につながったのかもしれません。　　（普及室／井上奈津美）

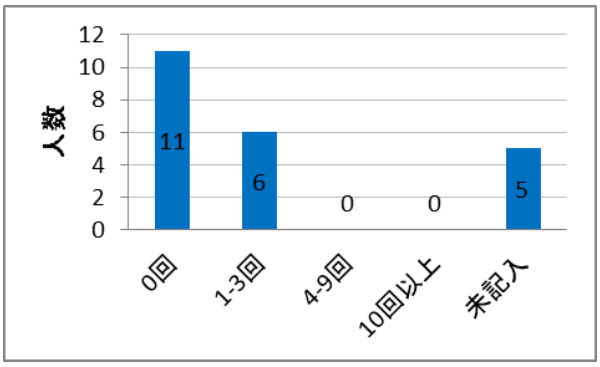
はじめてのバードウォッチング in 長等公園（滋賀）

【日程】2017 年 11 月 25 日（土）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】長等公園（滋賀県大津市）
【参加者】22 名（うち一般参加者 17 名）
【リーダー】5名、財団職員 1 名
【お試し入会者】2 名（一般参加者のうち約 12%）
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、滋賀リビング（11/11）
＜市報＞草津市広報

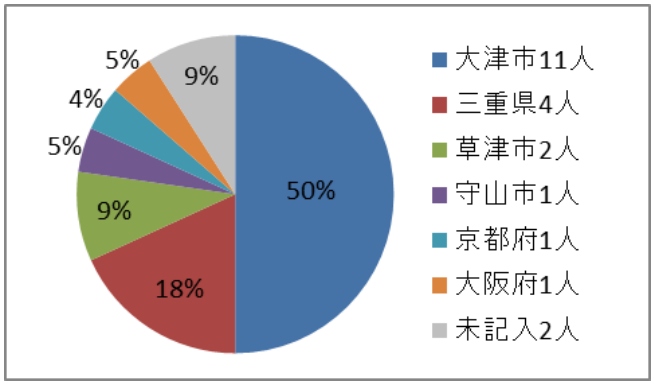
【性別】



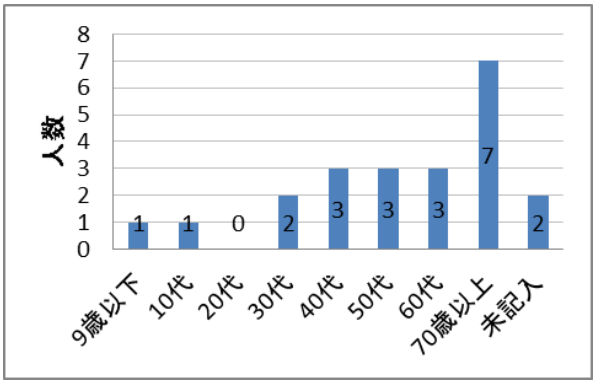
【バードウォッチングの経験回数】



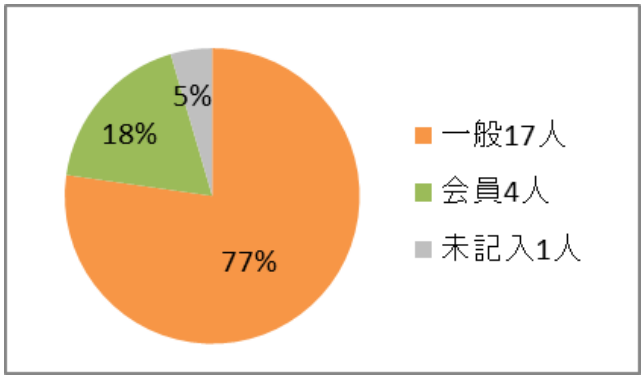
【お住まい】



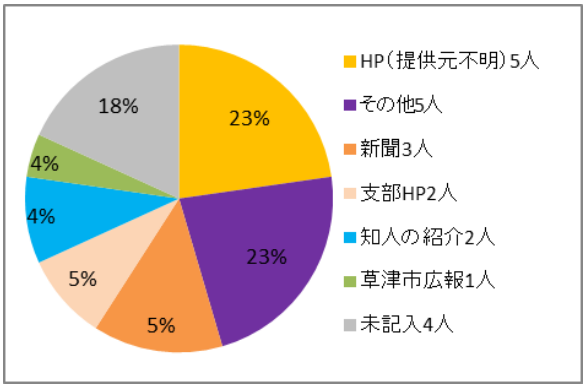
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

JR 大津駅を西へ徒歩約 20 分と、市街地の喧騒をわずかに離れた高台に位置する長等（ながら）公園は、複数の社寺や美術館、多くの歌碑があり、また桜の名所として市民に古くより親しまれている場所です。起伏にとんだ公園で、園路が樹林内に整備され、展望台からは眼下に琵琶湖を望むことができます。

会員を増やすための探鳥会の開催に適した知名度・立地条件とのことで会場に選びましたが、長等公園での探鳥会は久しぶりとのこと。運営スタッフはここをフィールドにしている会員と一緒に下見を２回、細かな行程・観察ポイントをまとめた実施計画を立てて準備をされました。

■探鳥会の様子

穏やかに晴れた JR 大津駅前の広場に受付を設置し、スタッフが参加者を出迎えます。スタッフは受付、資料配布、双眼鏡貸し出しの担当者を決めてスムーズに対応しています。受付を済ませて手持無沙汰な参加者にもにこやかに話しかけて緊張をほぐしていきます。

探鳥会会場へ直接集合する参加者がいるため、まずは集合場所から探鳥会会場まで参加者を誘導します。徒歩約 20 分と移動が長いので、その旨のアナウンスはしっかりと行います。市街地を移動しますが、道路横断時や進路が曲がるときはスタッフが声をかけて安全を確保しています。

会場でスタッフと共に待機していた現地集合の参加者と合流し、すぐにトイレのアナウンスをします。皆さんが落ち着いてから改めて、メインリーダーの挨拶で探鳥会が始まりました。スタッフ紹介やコース、見どころの説明と共に、階段や勾配など園路の危険個所、鳥を驚かせずに観察するポイントなど、人にも鳥にも配慮する説明がありました。

まずは水場に向かいます。林間の小さなせせらぎの周辺ではキセキレイやシジュウカラ、ヤマガラを観察することができました。

鳥を驚かさないようにリーダーは、声の代わりに図鑑や絵を使って参加者に解説します。小鳥たちの姿、気配を少しも漏らさずに感じたいという静かな熱気にあふれた参加者たちの様子がとても印象的でした。

樹林地内のやや薄暗い園路の移動では、足元の安全を確保しながらゆっくりと進みます。そこかしこに鳥の気配が感じられますが、なかなか参加者にはその姿が捉えられません。少し開けた場所でイソヒヨドリをスコープで観察できた際には、参加者から

「綺麗ですね。」

「すごい、こんなにはっきり見えるんだ。」

と感嘆の声が上がりました。小鳥たちの姿を見ることが難しかった分、やっと自分の目で見つけた時の参加者の興奮はひとしおだったように感じました。

頑張った参加者たちに、ゴール地点で思わぬご褒美が待っていました。水浴びをしていたアオバトが至近距離の枝にとまって、クロージングの間中その美しい姿を見せてくれたのです。これにはスタッフも大喜び。素晴らしい締めくくりとなりました。

▲「アオバトきれい！」

■参加者の声

40 代女性：なかなか見つけられなかったけどメジロを見ることができた時は本当に嬉しかった。今度は自分で見つけたいです。

70 代男性：いろいろ教えてもらうとたくさんの鳥がいるものですね。また参加したいです。

■まとめ

鳥の姿を見てもらうことがなかなかできませんでしたが、「鳥の気配を五感を総動員して感じる」ことに新鮮な喜びを感じている方が多かったと思います。お試し入会は２名でしたが、次の観察会への意欲を見せて下さる参加者が複数いらっしゃいました。支部の皆さんの丁寧な対応の成果だと感じました。

（普及室／浅野綾子）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年 11 月分）

１１月は 68 支部からご報告をいただき、計 265 回の探鳥会が開催され、のべ 7,047 人が参加されました。

表 2. 11 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 12 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	1	21	8	1	30
根室支部	–	–	–	–	–
釧路支部	–	–	–	–	–
十勝支部	–	–	–	–	–
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	15	11	1	27
道北支部	–	–	–	–	–
江別支部	–	–	–	–	–
札幌支部	2	62	30	5	97
小樽支部	2	7	3	2	12
苫小牧支部	–	–	–	–	–
室蘭支部	1	11	0	3	14
函館支部	–	–	–	–	–
道南桧山	2	8	3	5	16
青森県支部	–	–	–	–	–
弘前支部	2	13	0	2	15
秋田県支部	3	35	3	3	41
山形県支部	5	19	8	14	41
宮古支部	–	–	–	–	–
もりおか	1	19	2	5	26
北上支部	1	4	9	2	15
宮城県支部	4	76	29	9	114
ふくしま	1	31	0	2	33
郡山支部	3	49	0	8	57
二本松	–	–	–	–	–
白河支部	2	2	0	8	10
会津支部	1	6	1	1	8
奥会津連合	–	–	–	–	–
いわき支部	1	26	16	1	43
福島県相双支部	–	–	–	–	–
南相馬	–	–	–	–	–
茨城県	9	75	47	15	137
栃木	–	–	–	–	–
群馬	13	129	90	46	265
吾妻	2	32	3	4	39
埼玉	11	316	76	77	469
千葉県	10	135	58	56	249
東京	14	686	51	71	808
奥多摩支部	11	205	56	46	307
神奈川支部	10	196	43	31	270
新潟県	–	–	–	–	–
佐渡支部	–	–	–	–	–

富山	2	34	11	4	49
石川	3	45	11	7	63
福井県	2	18	32	8	58
長野支部	2	30	1	4	35
軽井沢支部	1	2	2	1	5
諏訪支部	1	7	11	2	20
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	49	1	4	54
富士山麓支部	1	4	0	2	6
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	12	2	2	16
南富士支部	3	88	30	15	133
南伊豆	1	8	0	2	10
静岡支部	2	31	10	5	46
遠江	2	37	20	16	73
愛知県支部	14	221	126	35	382
岐阜	-	-	-	-	-
三重	3	32	10	5	47
奈良支部	5	125	34	11	170
和歌山県支部	1	3	2	1	6
滋賀	8	62	76	22	160
京都支部	9	151	62	30	243
大阪支部	20	467	114	88	669
ひょうご	6	146	80	16	242
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	24	2	3	29
島根県支部	3	20	9	3	32
岡山県支部	5	111	54	15	180
広島県支部	5	72	56	6	134
山口県支部	3	21	16	3	40
香川県支部	2	88	30	3	121
徳島県支部	7	102	12	7	121
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	59	23	8	90
北九州支部	3	39	4	3	46
福岡支部	7	118	25	17	160
筑豊支部	3	41	10	3	54
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	3	54	25	4	83
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	74	27	8	109
大分県支部	3	29	22	3	54
宮崎県支部	3	43	36	10	89
鹿児島	2	48	13	7	68
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	1	5	1	7
全国	265	4694	1551	802	7047

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2018 年バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報をお寄せください■

今年も、バードウィーク期間の日曜日（2018 年 5 月 13 日）を「全国一斉探鳥会」として広報し、一般の方に野鳥や自然に関心を持っていただく機会にしたいと考えています。

事務局あての探鳥会スタッフ通信 1 月号に同封し、各支部事務局宛に探鳥会情報のご提供をお願いする書類をお送りしました。

広報を希望する探鳥会がございましたら、2 月 18 日（日）までに、Email または FAX、郵送で財団普及室までお知らせください。

とりまとめた探鳥会の情報は、ホームページやパンフレット「探鳥会のご案内」、メール送信等で広報し、特に会員でない方に参加を呼びかけます。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【お願い】

探鳥会のご案内パンフレットは、紙面の都合上、掲載できる探鳥会に限りがございます。各支部で複数の探鳥会情報をご提出いただける場合は、必ず掲載の優先順位もお知らせください。

表３．記入例

開催日	2018 年 5 月 13 日（日）
タイトル	『多摩川からはじめよう！エコライフの一歩』
都道府県	東京都
開催場所	多摩川（聖蹟桜ヶ丘駅～交通公園）
所在	多摩市関戸
交通	新宿から京王線・準特急で約 30 分
野鳥	シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、カワセミなど
PR	水辺の鳥、草原の鳥を身近に楽しむことができます。野鳥の子育てシーンを観察できるかもしれません。
主催	日本野鳥の会●●
参加費	200 円 （日本野鳥の会会員は無料）
集合時間・場所	10:00 ／ 京王線聖蹟桜ヶ丘西口
解散時間・場所	13:00 ／ 交通公園
持ち物	筆記用具、雨具、お弁当、あれば双眼鏡・図鑑
申込み	（事前申込みの有無。有の場合は以下もお書きください） 事前申込み不要 申し込み先： 締切日：
備考	（雨天時について）雨天中止

【送付先】

Email：tancho-staff@wbsj.org

FAX：03-5436-2635

住所：〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23　丸和ビル

（公財）日本野鳥の会　普及室　普及教育グループ　井上・関

【締切】

2 月 18 日（日）

■探鳥会における鳥インフルエンザへの配慮のお願い■

昨年もお伝えしましたが、この冬も、国内で高病原性鳥インフルエンザ（以下、鳥インフルエンザ）の野鳥での確認例が報告されるようになりました。

鳥インフルエンザは、鳥の病気です。養鶏場などのように鳥と濃密な接触をすることがない限り、人への感染は過度に心配する必要はありません。しかしバードウォッチングによって、知らず知らずのうちにウイルスを運んでしまい、被害の拡大に加担してしまうことがあり得ます。ここでは、このようなことを避けるためにはどのようなことに気を付ければよいのかについてお伝えします。

■水辺でのバードウォッチングの注意

鳥インフルエンザは、カモ類などの水鳥が主な宿主とされています。水鳥が集まる池や湿地、湖で探鳥会をするときには特に注意が必要です。バードウォッチングによってウイルスを広げてしまうケースとは、靴や車のタイヤなどに付着したウイルスを周囲の養鶏所などへ移動させてしまうことを想定しています。特に、探鳥会など、大勢の人が水辺に集まることで、ウイルス拡散の可能性がより高まると考えられます。

そこで、探鳥会を企画・実施するにあたり、以下の点に配慮していただくようにお願いいたします。

① 水鳥の糞が多量に落ちているような水際まで近寄らないようにしましょう。

② 探鳥場所から移動する前には、靴底、三脚の足、自動車のタイヤなど、地面に接したものを消毒しましょう。消毒薬には、

「消毒用エタノールIP ケンエー スプレー式500ml」
が安価でおすすめです。探鳥会には消毒スプレーを持参し、探鳥会の最後に参加者に協力を呼びかけスプレーで消毒しましょう。また、汚れが残っていると効果が低下しますので、泥をよく落としてから消毒しましょう。なお、この消毒液の毒性は低いですが、使用上の注意に従って、十分注意して使用してください。

③ できれば、１日のうちに、複数の探鳥地を行き来しないようにしましょう。どうしても必要な場合は、移動の前に消毒をしましょう。

④ 帰りに、養鶏場やアヒル等の飼育場、動物園などには近づかないようにしましょう。

■野鳥の死体を発見したら

野鳥の死体を発見したら、都道府県の鳥獣保護関係部署に相談してください。このとき直接、素手で死体に触れるのは避けてください。

野鳥の状況をこまめに把握し、いち早く異変に気付くことは、被害を最小限に抑えることに繋がります。行政に報告しても、実際に死体が回収され、鳥インフルエンザの検査が行われるかどうかは、野鳥の種や死体の数によって異なりますが、連絡を密にして情報を集約することには意味があります。

■鳥インフルエンザが近くで確認されたら

探鳥会を計画している探鳥地で鳥インフルエンザが発生した場合は、探鳥会を中止してください。ウイルスが増殖している場所に大勢の人間が押し掛けることは、それだけウイルスの拡散を助長させる恐れがあります。

また、観察場所の半径 10km の範囲で鳥インフルエンザが確認された場合は、中止を含めて対応の検討をお願いします。

■最後に

冬の水辺は見どころが多く、各支部による初心者向けの探鳥会が頻繁に開催されています。いつもにもまして、野鳥への配慮、参加者への配慮、社会への配慮が必要な状況となってきています。適切な対策をとることで、周囲の理解を得ながら、多くの方に探鳥会を楽しんでいただけるようご協力をお願いします。

当会では、国内の発生情報を以下のページにまとめています。ぜひご覧ください。

【野鳥と高病原性鳥インフルエンザ
（日本野鳥の会 HP）】
http://www.wbsj.org/activity/conservation/infection/influenza/

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信１月号の電子メール版の購読者数は、先月より２名増えて 821 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表４．探鳥会スタッフ通信１月号電子メール版の購読者数（2018 年１月 15 日現在）

支部	購読者数
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	1
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	5
秋田県支部	3
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	38
千葉県	21
東京	66
奥多摩支部	48
神奈川支部	25
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29
福井県	10

支部	購読者数
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	7
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	45
岐阜	5
三重	19
奈良支部	2
和歌山県支部	5
滋賀	19
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	16
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	13
岡山県支部	28
広島県支部	9
山口県支部	3
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	5
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	821

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

新しい年がはじまりましたね。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

今月は、紙面でも何度か広報いたしました、探鳥会リーダーズフォーラムがいよいよ開催されます。普及室での準備もラストスパートがかかっています。参加者は全員で 42 名と、にぎやかな会になりそうでとても楽しみです。今回の報告はスタッフ通信に掲載されますが、来年度も開催予定ですので、ご興味のあるかたはぜひご参加いただければと思います。

また、５月のバードウィークの全国一斉探鳥会の情報提供のお願いもはじまりました。締め切りが、ちょうど１か月後の２月１８日となっております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

訂正１）2017 年 10 月号、11 月号、12 月号の、「探鳥会保険集計結果」のグラフのタイトルに、下記の誤りがございました。お詫びして訂正いたします。
【誤】
10 月号：表 1．８月の探鳥会保険集計結果（2017 年８月 15 日現在）
11 月号：表 2．９月の探鳥会保険集計結果（2017 年９月 15 日現在）
12 月号：表 2．10 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 10 月 15 日現在）
【正】
10 月号：表 1．８月の探鳥会保険集計結果（2017 年９月 15 日現在）
11 月号：表 2．９月の探鳥会保険集計結果（2017 年 10 月 15 日現在）
12 月号：表 2．10 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 11 月 15 日現在）

訂正２）2017 年 11 月号「特集・会員を増やすための探鳥会①」と 12 月号「特集・会員を増やすための探鳥会②」の各探鳥会の記事において、下記の情報が抜けておりました。お詫びして訂正いたします。
【広報】＜新聞＞朝日新聞（10/24）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第58号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018年1月18日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org